

栃木県埋蔵文化財 センターだより

C O N T E N T S

- 発掘調査レポート
 - ・市町教育委員会が実施した発掘調査から
寺野東遺跡(小山市)
笹塚古墳(宇都宮市)
 - ・埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から
吾妻古墳(栃木市・壬生町)
- 特集 トチについて考える
- 栃木県立学悠館高等学校での資料の活用 ー復元衣装を使った授業
- 「宇都宮インターパーク」昔々、そのむかし ー東谷・中島遺跡群発掘調査展ー

2009
3月

やま
か
い
ど
う

発行 平成21年3月30日
栃木県教育委員会
宇都宮市埜田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>



発掘調査レポート 市町教育委員会が実施した発掘調査から

①寺野東遺跡の発掘調査(小山市)

寺野東遺跡は縄紋時代後・晩期(約3,000年前)の環状盛土遺構や水場遺構が確認され、平成7年に遺跡の一部が国史跡に指定されました。

小山市による工業用地造成事業が、この遺跡の南西の区画に計画されたため、市教育委員会では平成20年4月から平成21年1月にかけて発掘調査を実施し、竪穴住居跡35軒、土坑400基以上を調査しました。調査区の南西部には縄紋時代中期(約4,500年前)の竪穴住居跡が14軒と、貯蔵穴と考えられる袋状土坑が約40基集中し、前回の調査でも確認された、中期の集落跡を確認することができました。

袋状土坑の中には墓に転用された可能性があるものもあります。高さ60cmほどのほぼ完形の土器と耳飾り、石皿などが一緒に出土した223d号土坑や、底面の北隅にほぼ完形の土器が逆さに立てられていた270号土坑などがこれにあたります。また、21号住居跡からは特に多量の土器が出土し、復元可能な土器は20個体以上にのぼります。

これまでの調査の成果から、縄紋時代中期には谷を挟んで東西に同じような規模の集落が向かい合って営まれていたようです。しかし、竪穴住居跡がほぼ同数造られたのに対して、袋状土坑は今回調査した谷の西側で多く見られます。

(小山市教育委員会文化振興課 0285-22-9668)



寺野東遺跡位置図
(国土地理院1/5万:小山)



21号住居跡遺物出土状況



223d号土坑遺物出土状況

② 笹塚古墳の発掘調査（宇都宮市）

笹塚古墳は、宇都宮市東谷町に所在する大型の前方後円墳です。平成18年度～20年度にかけて3回の調査を実施し、次のような成果が得られました。

(1) 規模

墳長は西側部分に県道がとおっているために正確にはわかりませんが、105m程になると思われます。周堀は、内堀の幅が33～35m、外堀の幅が7～9mで、中堤を挟んで二重の周堀をもち、堀の外側には10～20cmの盛土や小砂利を敷いた幅4～5mの外堤があることがわかりました。この外堤部分で右下写真の集石遺構が確認されています。古墳の総長は210mを超え、栃木県内で最大級の兆域ちやういき（墓域）であることがわかりました。



笹塚古墳位置図
(国土地理院1/5万：壬生)

(2) 外部施設

墳丘は三段に築かれています。斜面には川原石の葺石ふきいしが葺かれ、平坦部には小砂利を敷いている状況が数箇所の試掘坑で確認できました。また、墳頂及び二段目の平坦面端部には埴輪が樹立されていたこともわかりました。一段目の平坦部にも同じように埴輪が樹立されていたことが、周堀の底から出土する埴輪の状況から想定されますが、墳丘に沿って造られた水路によって一段目平坦端部は削られており、それを確認することができませんでした。

(3) 周堀内の火山灰

周堀内からは、堀底近くで榛名山を噴源とする火山灰層と、中層付近で浅間山を噴源とする浅間B軽石層が確認できました。また、中層付近では砂層と粘土層が層状に見られることから、中世以降にこの堀の中を水が流れていたことがわかります。

笹塚古墳が語るもの

本地域では、4世紀の初め頃に古墳が造られ始めます。田川の西側の宝木台地上に、大日塚古墳—愛宕塚古墳—権現山古墳が連続して造られ、4世紀末～5世紀初頭に大型円墳の上神主浅間神社古墳が築かれます。

その後、5世紀中頃に、田川の東側であるこの地に、大型の前方後円墳である笹塚古墳が造られます。この古墳は上述したように本県最大級の墓域をもち、5世紀に限定すれば墳長も最大の古墳です。

この時期の大和朝廷は、倭の五王の時代に当たり、『国造本紀』では、難波高津朝なみのたかつのみかどの時に毛野が上下に分かれ「下毛野国」が誕生したと伝えましもつけぬのくにす。この古墳は下野国の成立を考える上で非常に重要な古墳と言えます。

(宇都宮市教育委員会文化課 028-632-2766)



葺石と埴輪
(前方部南
第三段斜面
南西より)



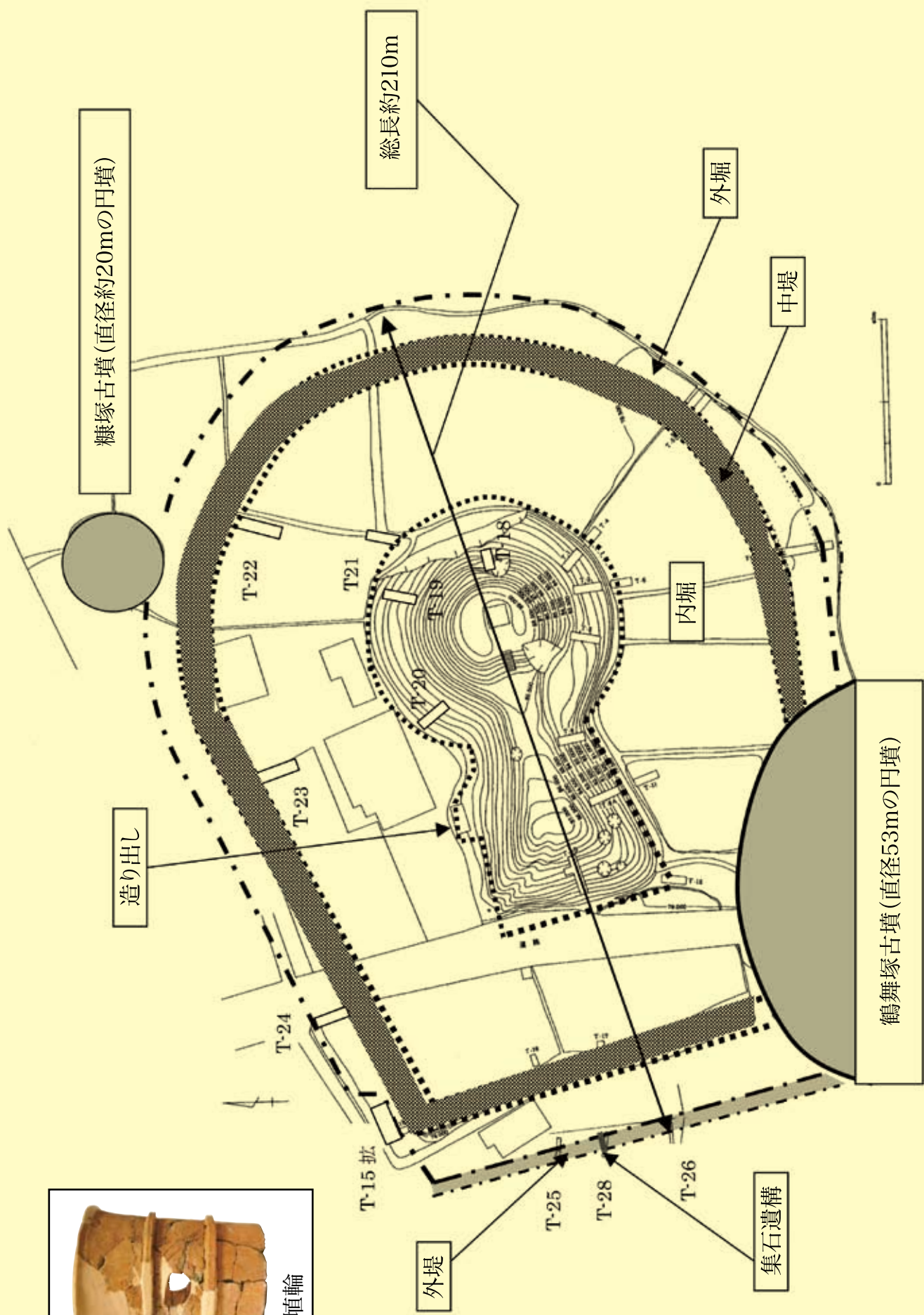
笹塚古墳遠景（南東より）



外堤部の集石遺構（東より）



円筒埴輪



あずま
③ 吾妻古墳の発掘調査

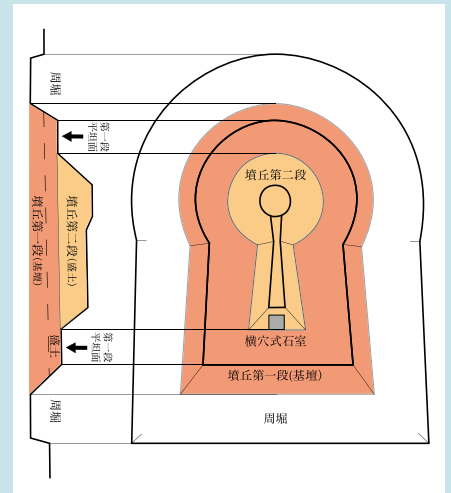
「栃木県で一番大きい古墳は、どれでしょうか?」と聞かれたとき、これまで「**小山市にある琵琶塚古墳**です。」と答えられてきました。平成19・20年度の調査によって、吾妻古墳の全長が発掘によって確認されたことで、それが変わりました。このことは、栃木県の古墳の歴史を書き替える大きな発見です。

これまで墳丘の全長123.1mの琵琶塚古墳が栃木県最大で、吾妻古墳はそれより小さいと言われてきました。ただし、これらの古墳を現地に訪れてみると分かりますが、そのかたちに大きな違いがあります。琵琶塚古墳は周堀の内側全体が高くなっていますが、吾妻古墳は高い部分が一回り小さくなっています。この広い平坦な面を古墳とみなすかどうかで古墳の大きさが違って表現されることになります。以前は、古墳は高い部分のみが墳丘で、広い平坦な面は墳丘ではないと考えられていました。その後、広い平坦な面も墳丘の一部であるという考えが示され、吾妻古墳の全長はさらに大きくなるという意見が出されました。しかしそれらの説は発掘によらなければ、どちらも証明できないものでした。そこで、栃木県教育委員会により古墳の大きさを確認するための調査が行われました。その結果、広い平坦な面も土を盛って築かれていることが確認され、墳丘の一部であるとみなされることになりました。これにより、吾妻古墳の墳丘全長127.8mと、県内最大であることがあきらかになったのです。

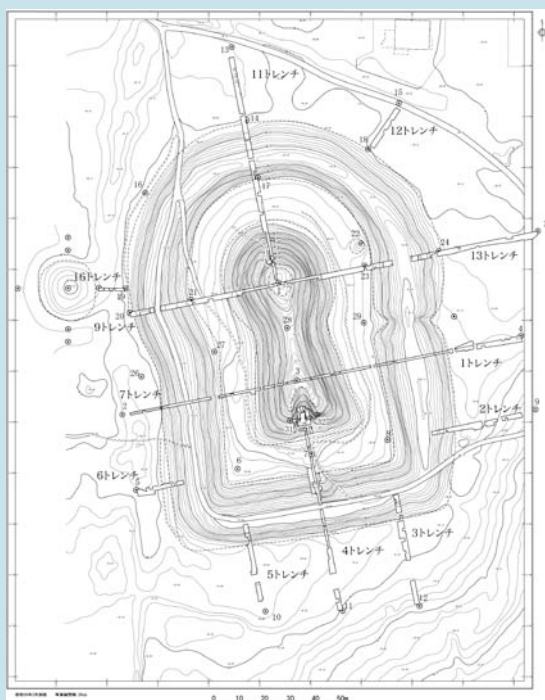
栃木県で一番大きいということは何を意味するのでしょうか?古墳の大きさは、それを造らせたひとの権力の大きさや造られた時代背景を表しますから、古墳の大きさが最大ということからは、それを造らせたひ



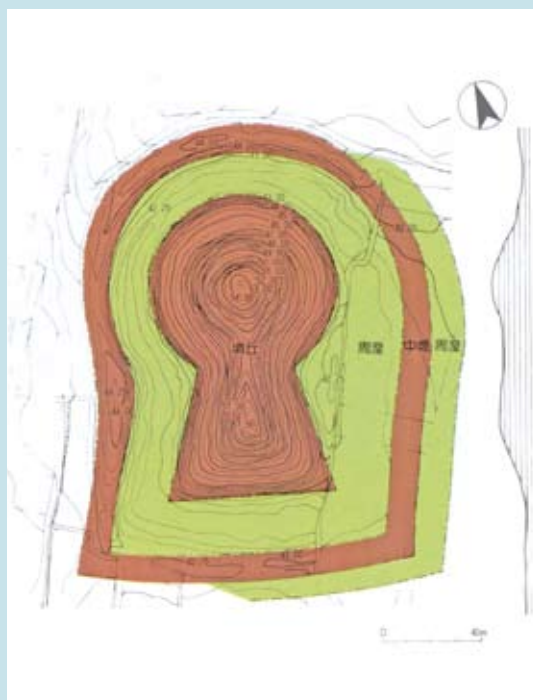
吾妻古墳位置図
(国土地理院 1/5万 : 壬生)



墳丘模式図



吾妻古墳墳丘測量図



琵琶塚古墳墳丘測量図 (栃木県立しもつけ風土記の丘資料館常設展示解説より)

琵琶塚古墳は、小高く土を盛った部分のすぐ外側に、堀がめぐらされています。それに対し、吾妻古墳は土を盛った部分の外側に広い平坦な面(基壇と呼ばれる栃木県独特のかたち)が存在し、さらにその外側に堀がめぐらされています。

との権力が最高潮に達したとか、その時代の地域社会の豊かさを反映していると解釈することが可能です。

ただし、古墳の大きさは長さだけで判断できるものではありません。吾妻古墳は長さで勝る一方、盛り上げた土の量は、琵琶塚古墳の方が多と考えられます。また堀の数も琵琶塚古墳が二重に巡り、土手を持つのに対し、吾妻古墳は一重で土手を持ちません。

平成20年度の調査でのもうひとつの大きな成果は、前方部にある石室を発見したことです。この石室は古文書(「壬生領史略」)に「吾妻の岩屋」として書き残されており、江戸時代から知られていました。また、明治初期に、壬生の殿様が石材を取り出した後、発掘された記録(「下野国古墳図誌」)も残っています。しかし、その後完全に埋没しており、近年は見ることができませんでした。今回の調査でその石室が約100年ぶりに姿を現しました。このことによって、江戸時代や明治初期の記録が正確であったことが分かりました。取り出されたと言いつづけられる石材は現在、壬生町歴史民俗資料館に保存されています。ひとつは玄門げんもんと呼ばれる凝灰岩でできた入口の石、もうひとつは天井と考えられる石です。それらの大きさと今回発見した石室の大きさはぴったり一致したので、言いつづけ通り、吾妻古墳のものと確定しました。これまで玄門が凝灰岩であることから、石室本体も凝灰岩でできていると考えられていましたが、今回の調査で、凝灰岩ではない、青灰色の硬い石であることが判明しました。その石はこれまで栃木県の古墳では類例のないもので、凝灰岩に比べて硬いものですが、玄門と天井がはめ込まれる位置に加工が施されています。さらに石室内面には赤い顔料が塗られています。

栃木県の大型前方後円墳は、5世紀に宇都宮市笹塚古墳(105m)、塚山古墳(98m)の順に築造されます。その後築造される地域が移り、5世紀の終わりから6世紀の初めにかけて、摩利支天まりしてんづか塚古墳(120m)、琵琶塚古墳(123.1m)の順に築造され、吾妻古墳はその後を継いで、6世紀中頃から後半にかけて築造されたと、埴輪のかたちなどから、考えられています。この時代には奈良県や大阪府を中心とした地域で国家形成が進行しつつあり、栃木県地域も無関係ではありません。吾妻古墳の大きさは天皇陵を除くと、この時期では全国でも5本の指に入るくらい大きなものです。栃木の古墳を調べることは、日本の古代の歴史ともつながるのです。(埋蔵文化財センター 0285-44-8441)



後円部周堀調査状況(東から)



前方部石室調査状況(南から)



前方部石室調査状況(南西から)



前方部石室確認状況(南西から)



下野国古墳図誌(栃木県立図書館所蔵)に掲載された吾妻古墳の石室

特集 トチについて考える

「トチノキ」は落葉広葉樹の^{こうぼく}高木です。栃木県の県名はこの「トチノキ」に由来しています。明治6年に旧栃木県と宇都宮県が合併して栃木県となりましたが、この「栃」という字を使い「栃木県」という表記に統一することが決定されたのは明治12年のことです。それ以前は栃・椽・栃など、いろいろな文字が使われていました。また、「栃」という字は漢字（元々中国で作られた文字）ではありません。漢字に似せて日本で作られた文字、いわゆる「^{こくじ}国字」です。平成21年1月には、29年ぶりに改訂された常用漢字（日常生活に必要とされる現代日本の漢字）に「栃」の字が加えられました。



1 トチの花が咲いた



ルリちゃん

栃木県の県木は「トチノキ」です。また、昭和55年に栃木県で実施された国民体育大会は「栃の葉国体」と呼ばれました。「県民の日」のマスコット「ルリちゃん」が傘にしているのも「トチの葉」です。

また、セイヨウトチノキはフランス語名でマロニエ：marronnierと呼ばれるため、栃木県立宇都宮産業展示館は「マロニエプラザ」、新進音楽家コンクール「コンセール・マロニエ21」などの愛称にも使われています。



2 クリの実(左)とトチの実(右)

トチの利用 「トチノキ」は昔からいろいろな使い方をされてきました。直径1mを超える巨木になるものも多く、材質が柔らかいため家具や臼・鉢などの材料とされました。また、その実は、山間部では重要な食糧とされ、平地部でも^{きざん}飢饉に備えた保存食として大切にされました。現代でも^{とちもち}栃餅やいろいろなお菓子などに利用されています。



3 県庁前のトチノキの並木



4 蜂蜜を採集



5 トチの蜂蜜

トチの蜂蜜 栃木県庁前のトチノキの並木は昭和14年に植樹されたもので、樹齢70年を超えています。栃木県では栃木県養蜂組合と協力して、県庁前のトチの花から蜂蜜を採取しました。平成20年度は41kgの蜜が採集され、県庁内のレストランなどで使われました。アカシアの蜜に似た、上質な黄金色の蜂蜜です。

縄文時代：トチの実の食用化 縄文時代のおもな食べ物木の実類であったと考えられています。縄文時代の遺跡からは、クルミやクリのほか、ドングリ(カシ類やナラ類の実)も発見されます。ドングリは、水にさらしたり、煮たりしてアクを抜かないと食べられません。更に格別にアク抜きが難しいとされるトチの実も発見されます。トチの実のアク抜きという高度な技術を獲得した縄文時代の人々は、自然界にあるほとんどの動植物を、食料として利用できたと考えられます。こうしたアクを抜くための、煮る工程に一役買ったのが“縄文土器”です。

新潟県中道遺跡の竪穴住居跡からは、蓄えられた状態のトチの実が大量に発見されました。栃木県内でも、宇都宮市御城田遺跡や壬生町八剣遺跡からトチの実が見つかっています。鹿沼市明神前遺跡や小山市寺野東遺跡では、湧水点に設けられた木の枠が発見されました。これは、ドングリやトチの実のアク抜き用の「水さらし場」に利用されたと考えられます。



6 新潟県長岡市中道遺跡 縄文時代の住居跡からトチの実が大量に出土した



7 小山市寺野東遺跡 水さらし場

トチの実のアク抜きの方法

トチに含まれるアクは、水に溶けないアロインやサポニンです。これを取り除くためにはアルカリで中和する「灰合わせ」の工程が必要となります。本州・四国の山間部を中心に、トチのアク抜きの技術が現代まで伝えられてきました。写真は南会津地方の只見町で撮影されたものです。

採ったトチの実を天日で干し、容器に入れて熱湯をかけ、皮をふやけさせて、「トチ剥き」と呼ぶ道具で皮を剥きます。その実を10日ほど流水にさらした後、容器に入れ、木灰をかけ、熱湯を注いで1昼夜漬けます。流水でアクを洗い流し、ドロドロになるまで煮、容器に入れて水を張ります。水が濁ったら水を替え、濁りが少なくなったところで、布袋に入れて搾ると栃粉(トチッコ)ができます。現代では栃粉を餅米に混ぜて搗き、トチ餅として食べる人が多いようです。



① 天日干し



② トチ剥き



③ 水さらし



④ 灰合わせ



⑤ 水洗い



⑥ 煮沸



⑦ 布袋に入れての搾り



⑧ できたトチ粉



⑨ トチ餅つき

8 現代のトチ餅の作り方
(写真提供 福島県只見町 新国 勇氏 ※禁無断転載)

■ 栃木県立学悠館高等学校での資料の活用 —復元衣装を使った授業—

埋蔵文化財センターでは、学校での教育活動を支援する目的から、出土品や復元した衣装などの貸し出しを行っています。小・中学校での体験的な学習に効果的だと思います。しかし高校での実践は、年間の予定に位置づけにくいことなどから、まだ利用は少ないかもしれません。

私はこれを活用して衣装を借り、埴輪にみる古墳時代後期の大王・巫女、高松塚古墳壁画にみる宮廷女官を比べる授業を企画しました。律令国家の形成に関連させて、呪術に満ちたヤマトの大王と、豪華で洗練された宮廷装束を実際に着て比較し、国家としての段階の違いに思いを馳せて欲しかったからです。

授業の当日、説明を聞くのもそこそこに、生徒は助け合って着付けを試していました。意外なことに古墳時代の衣装に人気が集まりました。やはり現代から見て珍しかったのでしょうか。また勾玉・耳飾り・鈴鏡などの小物が多かったのも、生徒の興味を引いたようでした。卒業を控え携帯で写真を撮り合うなど、楽しいひと時を過ごしました。放課後は本校の歴史研究同好会の部員も試着しました。

基礎的な知識を持った高校生でも体験的な学習により、歴史をより身近なものとして実感できるのではないのでしょうか。知識の定着にもつながりますし、埴輪などを観察する目も違ってくることでしょう。

(栃木県立学悠館高校 教諭 齋藤 弘)



「宇都宮インターパーク」昔々、そのむかし —東谷・中島遺跡群発掘調査展—

平成21年1月9日(金)から12日(月)にかけて、FKD インターパーク店大催事場において、東谷・中島遺跡群の発掘調査展を開催いたしました。会場には4日間で6,700名を超える皆様にご来場いただき、展示や体験コーナーなどをお楽しみいただきました。「このよう展覧会を今後も企画して欲しい」とのお声も数多く頂戴いたしました。大変ありがとうございました。



縄文時代
展示



復元衣装
着付け



古墳時代
展示



古代展示



勾玉作り



古代展示

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及事業担当まで TEL 0285-44-8441